



① 海岸で弱っていたキタオットセイの首をしめていたものは何かな？

答え ①ナイロンバンド (プラスチック)

解答・解説

アクアマリンふくしまが2021年2月16日に、いわき市の江名漁港で保護したキタオットセイの首に、ナイロンバンド (プラスチック) がからまっていました。ナイロンバンドが首に食い込みケガをして、痩せていたため、アクアマリンふくしまで1か月ほど治療をしました。最後には無事に海に帰すことができましたが、プラスチックごみに絡まって死んでしまう海獣 (オットセイなど) の問題は、世界中で起こっています。



② シーラカンスのおなかから出てきたものは何かな？

答え ㉗ポテトチップスの袋 ㉘ビニール袋

2011年に見つかったシーラカンスの胃の中からは、ポテトチップスの袋と白いビニール袋の破片が見つかりました。シーラカンスが生息するような深海にも、たくさんのごみが落ちています。シーラカンスは、ごみをエサと間違えて食べてしまうようです。写真のシーラカンスは、痩せていました。いつまでもプラスチックが胃の中に残っていたために食欲不振でエサを食べられなかったと考えられます。



③ コアホウドリのおなかから出てきたものは何かな？

答え ㉗ライター

アホウドリの仲間は子育ての期間以外は外洋で暮らしています。繁殖は主に海洋上の孤島で行われます。イカや魚をえさとしています。海に漂うプラスチックをえさと間違えて食べてしまうことが報告されています。ミッドウェイ環礁で見つかったコアホウドリの死がいから回収されたライターのうち日本製のライターは58.2%だったという報告があります。

④ オオグソクムシのおなかから出てきたものは何かな？

答え ㉗緑色のネットの切れはし

オオグソクムシは200～600m付近の海底に生息する甲殻類です。ダンゴムシなどの仲間です。あごの力が強く、エサと間違えて海底の漁具なども食べてしまうようで、体の中にネット (漁網) などが見つかるものもいます。



⑤ プラスチックごみが生き物に与える影響は？

答え ㉗からまってしまふ ㉘食べてしまふ。

キタオットセイのようにプラスチックごみがからまってしまふ生き物や、シーラカンスのように間違えて食べてしまふ生き物がいます。これはほんの一例で、プラスチックごみによって困っている生き物がたくさんいます。

⑥ ゴーストフィッシングとは何かな？

答え ①海の底に沈んだままの漁網が生き物を苦しめること

プラスチックは、軽くて丈夫でとっても便利です。漁師さんが使う漁網やカゴも、プラスチックでできています。

漁師さんも環境に配慮しながら、漁を行っています。意図せず漁網が切れて流れてしまうことがあります。

他にも網が不法に投棄されたりして海の底にたくさん沈んでいます。

海の底に沈んだ漁網やカゴが、そのまま残って、生き物を捕り続けてしまうことがあるのです。

ゴーストフィッシングによって海洋生物の減少を引き起こしてしまうことが心配されています。

⑦ 日本の海岸に落ちているのは日本のごみだけである。これは正しいですか？

答え ①正しくない

海に流れ出たプラスチックゴミは海流や風の影響で流されて、別の場所に流れ着きます。世界中の海はつながっているので、外国のごみが日本の海にたどりつくことがあります。ということは、もちろん日本で捨てられたごみが外国の海で見つかることもあるのです。潮の流れによってごみがたまりやすい「太平洋ゴミベルト」という場所が存在するのですが、どのくらいのごみが広がっているか、興味のある人は調べてみてください。とってもびっくりしますよ。

⑧ 屋外で放っておかれたプラスチックはどうなる？

答え ⑦碎けてどんどん小さくなる。



プラスチックは、紫外線や波の影響などでもろくなり、小さくなります。大きさが5mm以下のプラスチックごみをマイクロプラスチックといいます。海の中や砂浜には、マイクロプラスチックが存在します。想像してみてください。海をきれいにするために一本のペットボトルを回収するのと、こなごなになってしまったマイクロプラスチックを全て回収するのは、どちらが大変でしょうか？マイクロプラスチックはどんどん増えており、将来に渡って大きな問題になるのではと懸念されています。

⑨ プラスチックごみが多いのはどっちかな？

答え ①海底

プラスチックには、様々な種類があり、その多くは水の中では沈んでしまいます。浮かぶイメージのあるペットボトルですが、もし中に水が入ったらペットボトルは沈みますよね。最も多くプラスチックがたまる場所は海底で、海岸や海面で見られるものは全体の6%しかありません。海底に沈んでしまったごみを全て回収することなんてできるのでしょうか。海底に沈んでしまう前に、私たちにできることはないのでしょうか。

⑩ 海にたまるプラスチックごみを減らすために私たちにできることを書いてみよう。

プラスチックは、私たちの生活で欠かすことのできないものです。私たちは、プラスチックを使う責任として毎日の生活の中で、どうやったらプラスチックの使用量を減らせるのかを考え、行動に移していく必要があります。そのための考え方の基本となるのが、「リデュース=ごみを減らすこと」「リユース=くり返し使うこと」「リサイクル=資源として再利用すること」の「3R」です。